

教員の英語の指導スキルを向上させるデジタル指導案の作成

～指導案から動画・写真が視聴でき、指示・発問のイメージがすぐできる～

外国語活動、学習指導案、デジタル化、ICT機器の活用、教員研修

狛江市立狛江第三小学校

〒201-0015
東京都狛江市猪方1丁目1番1号

<http://www.komae.ed.jp/ele/03/>

1. 研究の背景

社会の様々な分野においてグローバル化が進展する中、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要である。次期小学校学習指導要領では、中学年に外国語活動高学年に外国語が位置付けられた。そして、平成30年度から段階的に実施される。

さて、東京都狛江市立狛江第三小学校（以下、「本校」という。）では、平成24年度から5年間、東京都言語能力向上拠点校として国語科と算数科において児童の思考力・表現力を高める研究活動に取り組んできた。狛江市より配置されているタブレット端末や実物投影機の効果的な活用について、授業実践を通して検証してきた。

今年度、本校は狛江市教育委員会より研究奨励校の指定を受け、外国語活動及び外国語の研究に取り組んでいる。これまでの本校の外国語活動は、英語教育推進リーダーとALTが中心になって指導してきたため、多くの教員は外国語活動の指導経験がほとんどないという状況であった。そこで、このような「ALTに頼る授業」から「教員が主体的に創る授業」へと意識を変革し、教員一人ひとりの外国語活動及び外国語の指導力を高める具体的な取り組みが必要であると考えた。しかしながら、多様化する児童や保護者への対応、新たに取り組むべき教育課題の増加、教職経験の浅い教員の増加など、教員自らが時間をかけて外国語活動及び外国語の指導力向上に努めることができるゆとりがないことが課題となっている。

表1 外国語活動の指導に関する意識調査の結果（回答数 13）

〔質問〕 外国語活動の指導について、 どの程度自信がありますか。	5 とてもよくできる	0人 (0%)
	4 よくできる	2人 (15%)
	3 どちらともいえない	3人 (23%)
	2 あまりうまくできない	5人 (38%)
	1 まったくうまくできない	3人 (23%)

表1は、今年度の1学期、本校の教員を対象として実施した「外国語活動の指導に関する意識調査」において、外国語活動の指導についての自信度を問うた質問項目の結果である。外国語活動の指導について「とてもよくできる」、「よくできる」と肯定的に捉えている教員は2名、「あまりうまくできない」、「まったくうまくできない」と否定的に捉えている教員

は8名であった。およそ60%（外国語活動の指導について手さぐり状態にいる「どちらともいえない」と回答している教員3名を含めると、およそ80%）の教員が外国語活動の指導について不安感をもっていることが分かる。

以上を踏まえて、ICT機器を活用し、外国語活動及び外国語についての研修を合理的・効果的に進め、教員が指導技術を身に付け、自信をもてるようにすることができる研修教材を開発することが必要であると考えた。

2. 研究の目的

本校における外国語活動及び外国語の研究を通して作成した指導案が、助成を受けて購入したタブレット端末に保存されている。指導案を起動させると、英語でのあいさつ、導入のチャンツや活動など、各指導過程における指導の様子の動画や写真が貼り付けられており、それをもとに指導の進め方や指導のポイントとなる指示・発問をイメージすることができるようにする「デジタル指導案」を開発する。

外国語活動及び外国語の指導技術の向上を目指す研修を実施する時間がなかなかとれない状況下でも、デジタル指導案を通してモデルとなる教員の指導技術を動画や写真でいつでもどこでも、短時間で見ることができれば、デジタル指導案の活用頻度は高くなり、繰り返し練習することもできる。また、ある1単位時間の授業の動画を見ている時間をとれない状況でも、授業の指導場面をしばって自己研修することもできるようになると考える。

3. 研究の経過

表2は、今年度の研究の過程を簡潔にまとめたものである。本校の研究推進委員会の中にデジタル指導案分科会を組織し、外国語活動及び外国語の研究と並行して取り組んだ。

表2 研究の過程

時期	研究の内容	デジタル指導案の開発について
4月	校内研究の組織づくり 研究主題に関する基礎研究	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">デジタル指導案の実現に向けたタブレット端末の機能検証及び修正</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">外国語活動の指導に関する意識調査の実施・集計</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">デジタル指導案の構成に関するアンケートの実施・集計</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">デジタル指導案の実現に向けたタブレット端末の機能検証及び修正</div>
5月	モデル授業（第6学年）	
6月	研究授業①（第6学年）	
7月	1学期の成果・課題の整理	
9月	研究授業②（第4学年）	
10月	研究授業③（第3学年）	
12月	2学期の成果・課題の整理	
1月中旬	研究授業④（第3学年）	
1月下旬	研究授業⑤（第5学年）	
2月	研究授業⑥（第5学年）	
3月	1年間の成果・課題の整理 次年度に向けての展望	

4. 代表的な実践

① デジタル指導案の開発

助成を受けて購入した最新のノートパソコンを活用して、デジタル指導案の開発に取り組んだ。開発の当初は、Microsoft Word を使って、本校における外国語活動及び外国語の研究を通して作成した指導案に、各指導過程における指導の様子の動画や写真のリンクを貼り付けようと考えていた。しかし、Microsoft Word の指導案だけでなく、それにリンクされている動画や写真もタブレット端末に保存されていないといけないため、タブレット端末の容量を大幅に超えてしまう恐れがあった。また、指導案上のリンクをクリックして動画や写真を見ようとするとき、別のウィンドウとして起動するため、やや操作性が悪いところもある。これらを勘案し、Microsoft Word ではなく、Microsoft PowerPoint で開発することに方針を変更した。

Microsoft PowerPoint では、指導案に動画や写真をリンクとして貼り付けるのではなく、直接貼り付けることができる。そのため、指導案とそれにリンクされている動画や写真を同じタブレット端末に保存し、管理しないといけない煩わしさを取り除くことができる。また、動画や写真を見るとき、別のウィンドウとして起動することなく、そのまますぐに見ることができる。これらの利点から Microsoft PowerPoint を使って、デジタル指導案を開発することにした。

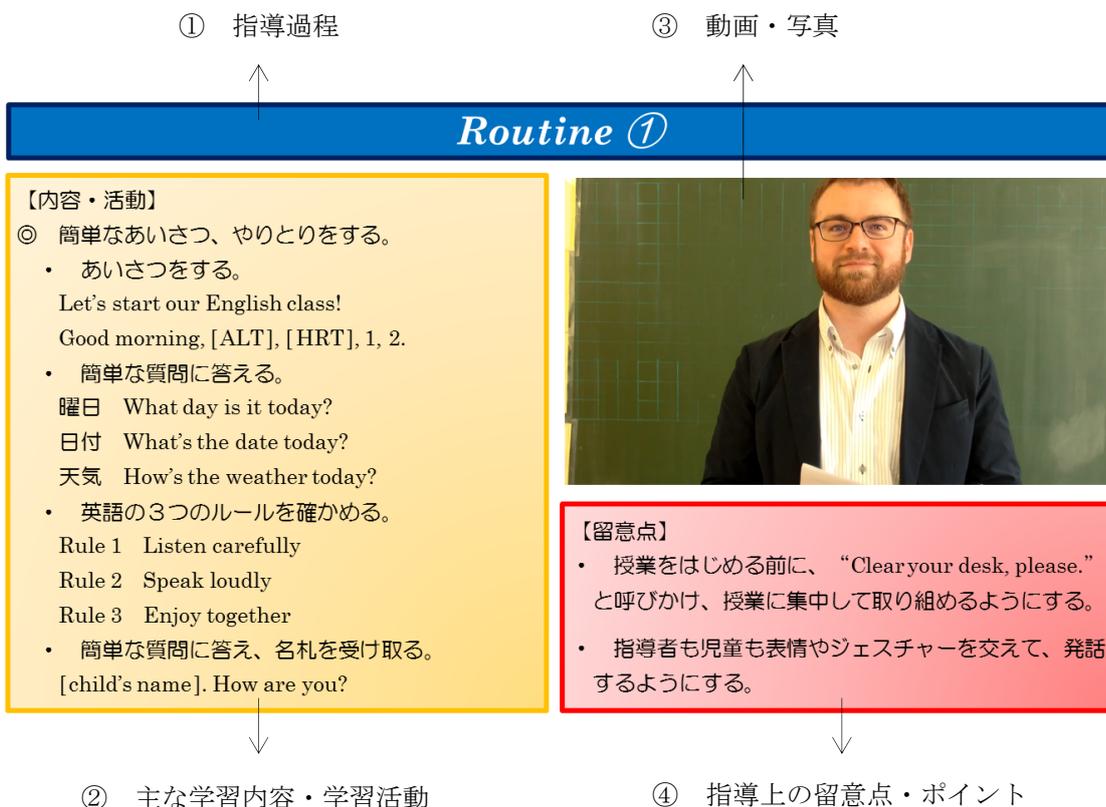


図1 Microsoft PowerPoint を使って開発したデジタル指導案の一部分

図1は、Microsoft PowerPoint を使って開発したデジタル指導案の一部分である。指導過程ごとに1枚のスライドにまとめ、4つの項目で整理している。

① 指導過程

本校の外国語活動及び外国語の授業の指導過程^{注1}を表している。

② 主な学習内容・学習活動

本校の外国語活動及び外国語の研究を通して作成した指導案をもとに、主な学習内容・学習活動を端的にまとめている。

③ 動画・写真

指導している様子を動画や写真として直接貼り付けている。

④ 指導上の留意点・ポイント

本校の外国語活動及び外国語の研究を通して作成した指導案をもとに、指導上の留意点・ポイントを端的にまとめている。

Microsoft PowerPoint は、プレゼンテーション専用のソフトウェアであるが、デジタル指導案はスライドショーの機能を使わなくても十分活用することができるような仕組みになっている。

② デジタル指導案の活用

助成を受けて購入したタブレット端末にデジタル指導案を取り込み、本校の教員が活用することができるようにした。

図2は、デジタル指導案をもとに本校の教員が模擬授業を行っている場面である。動画や写真とともに、主な学習内容・学習活動や指導上の留意点・ポイントも見られるため、指導案の紙面ではなかなか伝わない表情、ジェスチャー、声の抑揚などといった授業の流れをつくる指示や発問の仕方がよく分かる。教員は、それを真似したり、参考にして指導の工夫を図ったりすることに役立っている。



図2 模擬授業を行っている場面

また、「授業の最初に子どもたちの心をつかみたい」、「活動のとき、英語でどう指示・発問すればよいかを知りたい」など、授業の指導場面をしぼって活用している。

そして、デジタル指導案は、タブレット端末に保存されているため、教室や職員室など場所を問わず、いつでも、どこでも自己研修することができる。

注1 本校の外国語活動及び外国語の授業は、Routine①、Review（前時の復習）、Today's goal（本時のめあて）、Practice（練習）、Activity（活動）、Routine②の6つの段階により計画・実施している。毎時間必ず行うこととして、Routine①（初めのあいさつ）、Routine②（振り返り、終わりのあいさつ）としている。

5. 研究の成果

今年度、デジタル指導案の開発と活用の研究を通して、以下の2つの成果をあげることができた。

① 外国語活動及び外国語についての研修教材としての貢献

デジタル指導案は、外国語活動及び外国語についての研修に時間を取れない状況においても、場所を問わず、いつでも、どこでも、必要最小限の時間で自己研修することができる研修教材として貢献した。

また、図3は外国語活動の指導経験の浅い本校の若手教員が自信をもって授業を行っている場面である。デジタル指導案は、外国語



図3 授業を行っている若手教員

活動の授業の流れや指導のポイントをつかむことができ、外国語活動の授業を計画し、実施するに当たっての道しるべになった。教員一人ひとりの外国語活動の教材研究へのひたむきな努力とデジタル指導案により、本校の教員が外国語活動の授業のつくり方を理解することができたという相乗効果が生まれた。

② デジタル指導案の仕組みを生かしたさらなる研修教材の開発

今年度の2学期、本校の教員を対象として実施した「デジタル指導案の構成に関するアンケート」のその他・要望において、「クラスルーム・イングリッシュの一覧がある」と便利である」といった意見があがった。デジタル指導案分科会のメンバーと協議し、デジタル指導案の仕組みを生かして開発することにした。

図4は、Microsoft PowerPoint を使って開発したクラスルーム・イングリッシュ集の一部である。本校の外国語活動及び外国語の授業の指導過程ごとに、よく使う表現を英語と日本語で整理し、英語の発音音声を手付けしてあり、スピーカーのアイコンをクリックすると、英語の発音音声を聞くことができるようになっている。このクラスルーム・イングリッシュ集もタブレット端末に取り込み、デジタル指導案と同様、いつでも、どこでも、必要最小限の時間で活用することができるようにした。

デジタル指導案の仕組みを生かしたさらなる研修教材を開発することができた。

Routine ① —Name tag time—

T/C	English	Japanese
T	Any volunteers?	手伝ってくれる人はいますか？
T	〇〇, please come here.	〇〇さん、こちらに来てください。
T	Hi, 〇〇. How are you today?	やあ、〇〇さん。調子はどうですか？
C	I'm great. How are you?	とても元気です。調子はどうですか？
C	I'm good. How are you?	元気です。調子はどうですか？
C	I'm all right. How are you?	まあ元気です。調子はどうですか？
C	I'm sleepy. How are you?	眠いです。調子はどうですか？
C	I'm tired. How are you?	疲れています。調子はどうですか？
T	Here you go.	はい、どうぞ。

図4 クラスルーム・イングリッシュ集の一部分

6. 今後の課題・展望

その一方で、授業とは別にデジタル指導案に添付する動画を撮り直したり、授業の指導案からデジタル指導案へと構成し直したりしたことは大きな労力を費やした。限られた時間の中で開発するという条件と照らし合わせると、これらは課題であると言える。

7. おわりに

中学校から大学まで英語の授業を受けてきた教員が、なぜ英語でのコミュニケーションを図ることができないのだろうか。この疑問は、日本の英語教育の最も重要な課題だとされてきた。そこには、大学入試の形態、英語の学習指導の方法論等の課題が話題にあがることが多い。しかし、本校でこの1年間、教員のためのデジタル指導案の開発に取り組みながら、児童が英語を身に付ける過程は他の教科と同様であり、小学校への英語教育の本格的な導入にこそ、学びの原点に戻るべきだと確信した。すなわち、何のために、どんな知識や技能を身に付けたいのか、それをどのように活用したいのかという意識を児童自身がもてるような授業づくりこそが、これまでの英語教育の課題の改善につながる。そのために、問題解決の学習過程を重視し、単元や本時の学習の目標を児童自らが見付ける、あるいは強く意識する授業構成の手順を教員が身に付けることに力を注いだ。

本研究の機会を得たことにより、強い苦手意識をもっていた教員の意識が変わり、児童が主体的・対話的な深い学びを実現する外国語活動の授業づくりに見通しをもてたことが最大の研究成果である。貴重な機会とともに研究を助成してくださったパナソニック教育財団に感謝し、本成果を今後の英語教育の改善・推進に生かしていくことをお約束したい。

8. 参考文献

- ・ 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説総則編』東洋館出版社
- ・ 文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』開隆堂出版